

学友会 (関西)



Dedicated To International Peace and
International Understanding



YO NE YA MA 9

学友会の在り方

副ロータリー米山記念奨学会 副理事長 増田 房 二

学友会（関西）の運営にあたり、会長以下各会員の皆さんの格別のご尽力に対して、深く敬意を表します。全国的にみて、1987学年度の米山奨学生は499名であったものが、1992学年度には877名になって、その伸び率は5年間で75%を超えております。このような推移からみて、近年における米山奨学事業の拡大発展は目覚ましいものがあります。

学友会（関西）は1986年の発足でありますから、学友会も文字通りこれと歩調を合せて充実して来た筈であります。ところが、私がいささか疑問に感じますのは、会報6号7号の1989年度会計報告に記載されている会費収入は僅かに5万円であり、会報8号の1990年度会計報告には会費収入が全くないという点であります。これは学友会運営に必要な資金が会費収入ではなくて、殆ど米山奨学会や地区からの援助金に依存していることを示しております。学友会の運営には、行事の都度の参加費や、外部からの援助金寄付金

が必要であることは勿論否定しませんが、少なくとも経常費に関する限りは、会則に定められた正会員の会費（年額2000円）で賄われるのが本来の在り方ではないでしょうか。つまり学友会は、いわゆるオンブにダッコの甘えの集団ではなくて、明確な帰属意識を持った会員の結束による自立体制を整えるように、学友自身をもっと掌握しなければ、真の学友会とは言えないのではないのでしょうか。学友会の基盤が明確なものであってこそ、米山奨学会も地区も援助のし甲斐がありますし、また援助をすることに決してやぶさかではありません。

それに例えば会報も、いくら立派なものであっても、一部のロータリアンの好意的な寄付金だけに頼ってはいは、長続きしないのではないのでしょうか。学友の掌握には、何よりも世話クラブのフォローが大切であります。学友会ももっと体制を整え、地に足をつけた活動をして頂くことを期待してやみません。

最近感じたこと

副ロータリー米山記念奨学会 常務理事 2660地区バスターガバナー 種 田 憲 次

1986年5月に米山学友会（関西）が誕生した。その時の米山奨学生は全国で380名で、関西4地区では78名であった。それが6年後の1992学年度の米山奨学生は全国で823名、関西では78名まで増加した。OBの元奨学生はどうであろうか？母国に帰国される方が大部分なので数ではあまり変わっていないのではなかろうか？

この間の学友会（関西）の動きを見ていると、その創立の時に目指した元及び現米山奨学生

間の交流を通じて親睦及び互助を促進するということより離れて行くように感じる。これでは米山学友会（関西）を創立した意味が無くなるのではなかろうか？

役員の方々は大変努力しておられるので、正会員も準会員もそれに答えて頂きたい。そしてロータリアンとも交流を深め、米山記念奨学会の目的であるロータリーの理想とする国際理解と親善に寄与することに務めて頂きたい。

米山奨学生学友会の皆さんへ

米山奨学会 監事 伊 瀬 芳 吉

ご承知のように1956年（昭和31年）全国的な組織として米山奨学委員会（その後ロータリー米山記念奨学会となる）が結成され1958年からこの委員会による奨学金支給制

度が始まっている。

最初全国19の大学に呼びかけ13名の推薦をうけ、うち8名の奨学生を採用している。日本全国のロータリアンの積極的なご支援で

この制度は拡大に拡大を重ね30数年を経た1992年度は823名の奨学生を採用している。恐らく1993年度は900名近い奨学生採用となっていると思われる。多くの米山奨学生終了者の誕生に伴ない国際親善の輪を広げる機会が増えていると思われる。米山奨学生学友会の皆さんにお願いしたい事の第1は皆さん方の日本に於ける留学経験を通して皆さん方の母国と日本の国際親善拡大の方向に対して推進役になって頂きたいものと念願している事です。第2はお互いに縁あって米山奨学生となりその経験を共にした間柄である事を頭においてロータリーの世話クラブ及びカウンセ

ラー更に指導教官等に対する感謝の気持ちを忘れずに出来れば末永く連絡を密にして頂くと共に米山奨学生として知り合った他国の奨学生との交友関係を深め国際親善の輪を拡げて頂きたいとお願いしたい事です。米山奨学会本部としても新時代の米山奨学事業を検討中のようです。皆さん方においてご意見あれば申し立て頂き、共に米山奨学会の事業をより効果的なものに育てたいものです。重ねて学友会の皆さん方国際親善の輪を広げる推進役になって欲しいものとお願いしてご挨拶にかえさせて頂きます。有難うございました。

以上

会報について思うこと

第2650地区米山奨学 委員長 宇野豊三

私が第2650地区の米山奨学生のお世話をするようになって2年を経過しました。奨学生の年2回の報告を読むのが楽しみで、奨学生の皆さんが日本に来て、本当の日本の姿を自分の眼で見て、回を重ねる毎に視野を広めて行く様子が私にはひしひしと感ぜられます。

留学の最大の目的は人間の視野を母国にいる時よりも大きく広げることにあると私は思っています。一まわり視野を広くして母国へ

帰った元米山奨学生の活躍の様子を知りたいと思いながら現状ではほとんどそれが果せません。

この会報が関西在住の元米山奨学生の人達ばかりでなく、かつて関西のいろいろな大学に学んで帰国した元米山奨学生の母国での活躍の姿の現状報告で溢れるような状態になってほしいものと念願しています。

米山OB、がんばって！

RI第2650地区 米山選考委員長 京都伏見RC 嘉ノ海和男

1992年度と1993学年度の、2560地区での米山奨学生選考に携わりました。私たちの地区での倍率は、昨年は3倍、今年は4.7倍でかなりの「狭き門」でした。甲乙をつけにくいほど優秀な学生諸君を前にして、選考に当たったロータリアンの誰もが“ああ、全員に奨学金を貰ってもらいたいなあ”と長嘆息をしました。嬉しいことに、米山基金へのロータリアンの寄付は毎年増加しており、奨学生の数も増やされてきておりますが、まだまだこんな状態ですから、もっと基金を大きくしてもっと沢山の留学生を援助できるようになればいいと思います。そうなるためには、日本全国のロータリアンが、この奨学事業にたいして一層の理解を持たねばなりません、

私たち委員の努力とともに、米山OBの皆さんの活躍の様子を知ることが、どんなにロータリアンの励みになるか分かりません。米山奨学生の終了式で申し上げたことですが、OBになって、世話クラブやカウンセラーと制度上はお別れとなりましたが、私たちが皆さんを応援する気持ちにかわりはありません。どうぞ、カウンセラーだったロータリアンとの連絡を絶やさず、ときにはクラブを訪ねて近況などを知らせてください。そんな機会に知ることが出来る米山OB諸君の活躍こそ、米山奨学事業の力強い推進力になると信じます。

まことの幸福は人助けから

第2660地区 バストガバナー 廣瀬 勘一郎

学友の皆さん、毎日如何がお過ごしですか。異国で学び異郷で働く皆さん方は、慣れない日常生活の中で日夜懸命に頑張っておられる事と思います。

米山奨学生時代に、多くのロータリアンから暖かい指導と援助を受け、崇高なロータリーの精神を幾分でも身につけられた皆さんは、学友となつてはじめて、今迄の尊い経験を活かし、ロータリーの理想「思いやりと助け合い」の精神を実践に移して、ロータリーの喜びと思恵を、より多くの後輩や周囲の人達に分かち与える義務があると思うのであります。

皆さんは世界的に歴史・文化・風俗・習慣の異なる国から集まっている前途有為の青年達であります。そうした国境や言語の相異

を乗り越えて、国際的な親善を高め、世界の平和に役立つ民間外交官としての役割を、今こそ大いに果たして貰わねばなりません。

年々、米山奨学生は増加の一路をたどっておりますが、皆さん方は学友としての友情を更に高めるために、これからは地区単位に、スポンサー・クラブとの連繫を強めて各人の消息を密にし、情報の交換、キメ細かな交流を深め、お互いに助け合う事によって、まことの幸福をより多く得られる事と信ずるのであります。

日本に於ける民間の中でも、最も強大な奨学金寄付奉仕団体である米山記念奨学会の今後の発展と、その活動意義を益々高めるために、猶一層、皆様方の絶大なご協力とご活躍を期待してやみません。

米山奨学生一泊研修旅行報告

第2640地区米山奨学 委員長 釜下 保男

米山月間の一環として、地区米山奨学部門が主催して、去る10月11日～12日の2日間にわたり、静岡県三島市郊外の米山梅吉翁の記念館見学ならびに、伊豆大仁温泉一泊の研修旅行が挙行されました。

一行は、大澤ガバナー、東條P.G.、地区役員、はじめ各クラブのカウンセラーならびに奨学生ら総員48名（この中、奨学生は、28名）で、新大阪発9時32分の「こだま」にて、曇天の車窓を見ながら12時49分三島に到着。地元の長泉R.C.の関係会員の出迎えを受け、直ちにバスで米山記念館に向かいました。

記念館は、米山家本宅敷地の一部にあって、左程大きくない二階建てで、翁が生前愛用の品々、直筆の書簡類、家族や関係者の写真など、いろいろ活躍された偉業が偲ばれます。また、広大な米山家の墓地も近くにあつて、東條P.G.、楠（高野山R.C.）両親下ならびに僧形の奨学生パナンウェラー君（スリランカ出身、高野山大学留学）も揃つての読経のもと、一同合掌させていただきました。

このあと、長泉役場前に一昨年建立された翁の銅像前で一行の記念撮影が行われ、更に、長泉P.G.の例会場で、さきに三島駅まで出迎えていただいた副会長の米山晴雄氏（この方も、翁の遠縁にあたるそうです）より歓迎のご挨拶をいただき、続いて会員の永倉芳郎氏（この地区の前の米山奨学部門委員長）の卓話をうかがいました。

お話は、翁の生い立ち、偉業など綿々と語られ、最後に勸米山梅吉記念館の運営は、実は、勸ロータリー米山記念奨学会とは、全く別形態のもので、何とか早く奨学会の定款を変更して大資本のもとで、近隣の地所を買収して、宿泊施設のある研修館を建設し、全国の奨学生に役立たせたいと、締めくくられました。

長泉P.G.をお暇し、次なる旧蹟、董山反射炉で、反射炉そのものの理屈も十分理解し、先駆者江川太郎左衛門の偉業を偲びつつ、本日の宿泊地大仁ホテルへ到着しました。

旅装を解く間もなく、会議室で大澤ガバナーの激励のご挨拶があり、そのあと、米山

翁伝記のビデオ上映があり、今までどちらかといえば翁の表面的な生い立ちや事績しか知らなかった一同にとって、意外に苦勞されたこと、また、不幸な目にも遭われたことが分かり、更に感銘を深めたようです。このことは、夕食時に奨学生をはじめ各カウンセラーに改めて自己紹介を兼ねて所感を述べていただいた時にもそれが出ておりました。

翌朝、富士の絶景に感嘆しつつ、平比東條P.G.から米山翁のあまり知られざるエピソードの幾つかお話があり、翁に対する気安さも幾分もったようです。

9時30分ホテルを出発。悲劇の武将源頼朝や将軍の源頼家ゆかりの古刹修禪寺に詣で、次いで伊豆西海岸の土肥にまいりました。当地の金山跡見学では、昔の悲惨な金堀り人夫の仕事場や生活、わけても女人夫の存在など、奨学生たちには現在の日本と比べて不思議そうにつぶやいておりました。

道を再び引き返し、伊豆第一の名瀑浄蓮の滝での昼食時、刺身用に出された天然の山葵

(わさび)に対し、奨学生一同その味を愛でるあまり各食卓に残された擦り残りの山葵を集めている者もあった程です。日本の香辛料として珍しかったのでしょうか、しかしその値の高いのには驚かされます。にもかかわらず多く土産に買いこんでいたようです。このあと、三島発16時8分、新大阪18時29分着無事予定通り帰阪しました。

僅か二日間の奨学生たちとのふれあいでしたが、一人一人は実に気持ちのよい若者で、日本語も仲々達者で、乱れた言葉を使う日本人より遥かに丁寧で聞きやすい言葉で接してくれました。米山翁の偉業や遺徳にも謙虚に認識し受け入れ、更に、母国の複雑な政治問題にも関係なく、国籍を離れて互いに談笑し合っていたのには感心させられました。さすがに、選ばれた人たちです。

これからも、かかる行事を機会ある毎に開催されて、将来のより一層の国際親善に役立たせていただきたいものです。



学友会員間の相互理解と緊密な連携に期待して

相談役 重光世洋

春らんまんの季節となりました。皆様におかれましては益々ご健勝にてお仕事にご勉学にご精進されておられることとお慶び申し上げます。

米山学友会(関西)が1985年5月に初声

をあげてから早や8周年目を迎えようとしています。この間、ロータリアンを始め役員および会員皆様のご理解と絶大なるご協力のお陰でもって着実にその発展をみる事ができましたことはなによりも感謝と慶びで胸が一

杯のこの頃でございます。

もっと喜ばしいニュースは、昨年5月の総会において、第3代目の会長に許紫芬さんが選ばれたことでありましょう。わたしの知る限りでは、学友会のために日夜頑張っておられるごようすのようです。新会長は、女性として初の会長でもあり、非常に責任感の強いお方で、その上に熱意が満まんてかつ繊細なる心の持ち主でもあり、きっと楽しい学友会の運営が大いに期待されます。それには、皆様の絶大なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

皆様の情報交換や交流の場の一つでありますこの会報も発刊の回を重ねる度に益々その充実を見ることができるとはなによりも喜ばしいことでございます。これは、偏に皆様の学友会に対する強い関心と実のある交流の表われであると確信いたす次第であります。

本年も新たに名誉ある米山奨学生に選ばれた方、そして終了してOBになられる多くの方を迎え、これからの学友会の益々の発展が期待されます。ロータリーの奉仕の精神に育まれた真の仲間意識が芽生え、そして会の活動に積極的に参画することによって、互いに心の疎通が図られ、これによって真の理解が産まれると確信いたします。

今日の世界は東西の冷戦構造が崩壊したものの、新に民族間の闘争が世界の各地域で発生しており、多くの尊い生命が失なわれていることはなんと悲しいことでしょうか。日本もバブル経済の崩壊によって、社会経済が危ぶまれております。この時期にあって、われわれに何ができるかを今一度反省、点検し確認する必要があるのではないのでしょうか。それは、恐らく人類の共有する真の「心」の開花に期待することに帰着するのではないのでしょうか。21世紀に向かって、人類は世界が一つ

の運命共同体である意識、ひいては地球は一つ、世界は一つといった発想転換が望まれよう。「言葉をあげせず」という古来の美德はもはや美德でなくなり、お互いが理解し合える論理を惜しみなく提供することが必要があることはいうまでもありません。それは力の論理ではなく、話し合いの論理であり、またそうなくてはならないと思います。

そのためには、国際的な共通利益を発見し、それを土台に相互の協力関係を築きあげ、異質要素を融和し、人的の交流を一段と押し進めることが大切であります。

アジア・太平洋地区の発展は、欧米と違って、大局面での可能性はあるが、小局面では未成熟の部分が多いといわれております。これはまさに異質要素がありすぎていることであろう。しかし、これらが統合できれば、交流のダイナミズムが生まれ、人種、民族、国家の意識のからむ伝統的、歴史的対立が解消され、われわれの共有するアジア・太平洋の経済的発展、平和の実現、ひいては世界の真の平和が到来できよう。

われわれの学友会も国際人の集まりであるから、おたがいに異なった文化や風俗習慣の存在を認め合う前提に立って、異質間の理解と共通の利益を求め、そして寛容と奉仕からその第1歩を踏み出すことから始めようではないか。そのみちかな「器」はまさにわれわれの学友会ではなからうか？

最後に、長い間、会の運営に多大なるご奉仕ご尽力して頂いた魏柏良前会長を始めとする役員の皆様に対して衷心より感謝の意を表するとともに、これから会の活動運営に心労と労力をお掛けする許会長ならびに役員幹事の皆様に対して宜しくと一言を申し上げます。

(大阪産業大学工学部教授)

大連で講演や交流をしませんか

石 若 一

1991年3月、大阪市立大学大学院経営学博士課程を修了後、東北财经大学に戻り、講師として会計学や日本語の授業を担当している。中国の教育は対外開放と改革に促され大掛かりな改革を行なっているが、人材不足や

教材不足が教育の発展に影響を及している。そこで、私は大連の関係方面と連絡をとり、次のようないくつかの交流の場を企画している。一つはかつての米山奨学生で帰国した学者や専門家を大連にまねき、国際シンポジウ

ムや特別講座を開くことである。このほかに、貿易、国際経済、保険、流通、証券などの分野に活躍している元米山奨学生をまねき、講演や学術交流を行うことなどである。

昨年から中国は市場経済の導入やいっそうの改革、開放によって、外国の経済管理や経営方法などを取り入れようとしている。私の専門分野は外国会計であるために、大連の監査法人、外国会社、役所、会計士事務所、大学、研究所、貿易会社などから仕事の依頼を受けることが多い。私は大学の仕事以外に、以上の関連部門への手伝いをしてるがどこへ行っても外国語ができ、経済（会計、金融、証券など）や技術をよく分る人がほしいと言われている。もちろん、ロータリアンや米山奨学生の方々が希望すれば、これらの部門との交流や学術訪問もできる。とくに日本や韓国、台湾の投資が多いから、日本、韓国や台

湾との交流や協力を求めている大連の関係者が多い。

最近、大連はいっそう開放して、旅順に投資や合併をしてもよいと許可された。ロータリアンや米山奨学生の方々は、大連へご訪問の際、是非とも私にご一報ください。あらゆる面でバックアップしたいと思います。

住所：中国大連市中山区安民街19号東3-4
電話：2607817



秋の懇親会

王 敏 東

1992年度の秋の懇親会は11月1日に京都嵐山で盛大に行われた。従来の懇親会はホテルなどの会場でのことが多かったのが、今回はじめて屋外を散策する形で行われた。

大会は朝10時半に始まり、2660地区パストガバナーの武尾敬之助氏、2660地区米山奨学委員長の増元猛氏、2650地区米山奨学委員長の嘉ノ海和男氏がそれぞれ挨拶をし、その後、主催の学友会の役員たちの紹介が行われた。ちょうどこの頃、ぺこぺこなお腹がもうお昼の時間だと教えてくれた。爽やかな秋風に囲まれる内、ピクニックの雰囲気でお弁当を食べながら、旧友と話したり、新しい友達を作ったりした。

食後、いよいよメインの見学活動に入った。まずはトロッコ列車で嵐山を巡った。やや肌寒い天気であったが、皆の情熱にはかなわなかった。小高い山々に紅葉がちょっぴり赤くなり始まっており、白い飛沫をあげる保津川に合わせ、まるで絵のような秋の味わいを見せてくれた。

その後はあの保津川下りである。亀岡から渡月橋まで約16kmもあり、2時間の溪流を下った。ちょっと恐かったが、別の販売船から買って飲んだ甘酒はおいしかった。

活動は予定通り4時半に、恒例の万歳三唱をして終わった。紅葉も満喫し、保津川も下り、楽しい一日であった。





京都保津川の旅

副会長 劉 嘉 雄

1992年11月1日（日）はわれわれ米山奨学生学友会のOBやその家族や現役留学生にとって非常に素晴らしい一日でした。今回学友会からは日本に長く住んでいる先輩たちと現留学生たちがお互いに知り合う機会を与える意味で懇親会を企画しました。今回の懇親会はロータリーのカウンセラーをはじめ、OBやその家族と現役留学生たちが多分暫くこの学友会からの活動が行わなかったのか、或は皆様がこの機会に故郷を思い出しながら思郷をよみがえようと思うのか、参加者は非常に踴躍に出て来ました。もちろん今回の見学の行先は、皆様にとっては魅力的かつあこがれているところでもあったでしょう。それは京都の保津川下り旅です。これは年に一度しかお目にかかれない素晴らしい楓葉の名所でまた春、秋にしか運行されていない人気を呼んでいるトロッコ列車と保津川という有名な川で

船に乗ってめずらしい溪谷の絶景と楓葉をながめながら清流と怪石を觀賞できる世外桃源です。それは人生最高の享受のことと言われます。懇親会の当日に皆様が有名なトロッコ列車に乗って保津川に沿って両側の絶壁についている画のような景色をたのしみながら小葉片のような小船を見下しながらその笑顔さえ感じます。また実際に皆様が小船に乗って川を下りながらそれぞれ岩石の隙間を通り抜いて行く心がとまりそうな緊張感をきっと一生忘れはしません。これは言うまでもなく今回学友会最大成功の象徴と言えるでしょう。これからもこのように大自然と接しながら健康の為にハイキング・釣りや野外活動を企画したいと思っておりますので、皆様より貴重なご意見をぜひ学友会にご一報下さい。皆様の成功をお祈り致します。

次世代生産システム

21世紀を間近かにして、経済のソフト化、サービス化の到来が言われているが、その基軸に製造業があることは言うまでもない。

その製造業は、機械の体系的な導入に基づく初歩的な生産システム（mechanization

広島工業大学経営工学科 専任講師 宋 Sangjae SONG 相 載

system) からコンピューターや自動制御技術の導入による無人化工場（unmanned factory[ization]）まで、時代の流れと共に大きく変貌を遂げてきた。今日、時代の荒波に堪えられて来た日本の製造業に忍び寄る海外

からの対日圧力、環境問題、人手不足など21世紀に向けた製造企業の諸問題を踏まえて、製造業の構造変革こそが、国際社会で生き残り、引き続き日本の経済のけん引車として責任を担うことができる。

こうした構造変革を求め、多くの製造企業は、多様な製品の自動生産が望まれる現代の生産様式—「多種少量生産」を効率よく遂行するため、「コンピューター統括（統合）生産（CIM-Computer Integrated Manufacturing[System]）」や「インテリジェント生産システム（Intelligent Manufacturing System）」を指向しつつある。

CIMは製品や機械、工具、工程設計ルールなどに関するデータを論理化し、データの資源化を図ると共に、グローバルな資源を有効に統合・調整することで、生産コストを低減し、顧客満足を高め、フレキシブルで、競争力ある機敏な生産システムを可能にする。さらにCIMは、直接労務者の数を極端に縮減することを意図し、世界トップレベルに達した日本の労働賃金率（1990年一時間当たり、日本：1,555円、アメリカ：14.77ドル、ドイツ：21.53ドル〈Business Week, Feb. 17, 1992〉）と、NIESの追撃に対処し得る一つの方策にもなりうる。

しかし多種少量生産は、消費者の多様なニーズを満足させる反面、製品のライフサイクルを短くし、まだ十分使用可能な耐久製品が新型と置換・廃棄されて、重要な資源を浪

費するといった負効用、外部性の経済を生み出していることも認識しなければならない。これはまさに生産〔者〕の倫理、消費〔者〕の倫理が問われる課題である。また高度先端技術を含め、工業生産は、生命系と無縁な疑似閉鎖系で、地球資源の発掘・加工・利用・廃棄に終始し、資源の枯渇と環境汚染・地球破壊を引き起こし、生態系を崩壊する危険性もある。

このような破壊的生产を防止し、生産技術の宿命を再認識して真に人間社会に幸福をもたらすため、正しい生産方法を科学的に検証しうる学問として「Exact Manufacturing Sciences」の確立を目指して、当方では次世代の生産理論を模索している。

「社会は、一瞬も消費をやめることができないように、生産をやめることもできない〈資本論(I), p.737, 大月書店〉」という生産の重要性を再認識し、次世代の生産システムは、これまでの生産を反省し、自然との調和の中で、常に社会的な性格を帯びるものとして「社会的生産（social production / manufacturing）」の意義を問い、地球破壊を伴う工業製品の過剰生産、使い捨て社会を廃し、設計・生産の哲理の確立を目指し、節度ある適正な利潤の取得が可能で、同時に長期的安定成長が得られるものにしていくことが肝要である。さもなければ、人類には生産する使命があるのに、生産の終焉、労働の終焉、さらには、地球の終末を迎えなければならない。

1992年度米山奨学生レクリエーションの出席報告

米山学友会（関西）副会長 大塚賢龍

昨年の10月4日（日）に、国際ロータリー第2660地区主催の米山奨学生レクリエーションが宝塚大劇場で行われました。学友会からも10人が参加し、楽しいひとときを過ごさせていただきましたので、その内容を少しご紹介いたします。

当日は、午前10時30分に宝塚歌劇場に入場し、観劇をした後、懇親会が行われました。歌劇は、第一部が花組の秋の踊り、ラインダンスなどでありましたが、特にラインダンスは印象的でした。第二部は欧州の恋物語で、出演者はすべて女性ですが、中でも男性に扮

した主役の演技が特にすばらしいと思いました。観劇の後、午後3時半から大劇場の3階の団体食堂で懇親会が行われました。懇親会では、第2660地区の山中ガバナー、地区米山記念奨学委員会担当であるバストガバナーの武尾敬之助様、米山記念奨学会常務理事である種田憲次様、地区米山奨学会委員長の増本猛様から、「米山奨学生レクリエーション」の趣旨について説明していただいたほか、奨学生に対して励ましのお言葉をいただきました。また、レクリエーションではカラオケ大会が行われ、各国の歌やコーラスが披露され

ましたが、学友会代表の王昭文と李幸禧のデュエットがみごとに優勝しました。

ロータリアンおよび現奨学生との交流の機会を与えて下さった国際ロータリー第2660

地区の方々に、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後とも、米山学友会へのご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

一刀両断

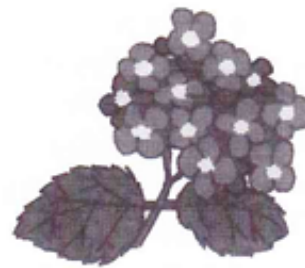
陳麗華

日本語で「一刀両断」という言葉はあっさり事物を決めるという意味で、「快刀乱麻」に近いと思われまふ。一方、中国で「一刀両断」は「縁を切る」ということを意味します。この四字熟語が引き起こしたエピソードをお話ししましょう。

長女が生まれた時の出来事です。主人（日本人）とすでに用意しておいた名前を役所に届けようとしたら、台湾からお産のお手伝いに来た私の母が「父親の名前の一字を取り、子供に名付けるのはまるで兄弟のような感じがする」と言い出しました。しかし、親の名前から一字とるのは日本ではごく普通のことです。長年日本に住み慣れたとは言え、私は次第に心を動揺しはじめました。あれこれと市販の姓名判断の本を読みあさっても、ピンとくる名前がなく、焦りました。

ある時、意志の変わらない主人に新しい名前に変更するよう説得していたら、彼はいき

なり中国語で「一刀両断」と言い出しました。（彼は少し中国語を勉強した事があります。）それを聞いた母と私はたいへん驚きました。ちなみに、母はまったく日本語が分からないのでなおショックだったと思います。私も主人も両国語間でその言葉の意味がこんなにも違うとは思いませんでした。当然、その場で主人を責め、誤解を招くような事を言わないようにと頼みましたが、実はお互いに漢字に翻弄された異文化の犠牲者でありました。



私の和紙づくり

兵庫教育大学（世話クラブー北条、カウンセラーー原平和）米山奨学生 邱斐鈺

紙は有史以来、情報の記録や伝達をはじめ、多種多様の用途を以て、人類の文化に貢献してきました。というのは、紙は人間生活に欠かせない大事なもので、私達の日常生活に深く浸透しています。例えば：ディッシューパーバ、新聞紙、印刷用紙、筆記用紙、包装紙などがあり、特に日本では、御承知のように日本人の住む家というのは木と紙とで出来ており、特に障子の紙とか、あるいは提灯に使う紙というものが、それらは全部紙でつくられているわけでありまふ。

私たちが日頃使っている紙は洋紙と和紙に大別されます。和紙は古代中国で生産と使用が始まり、朝鮮半島に伝播しながら、日本に

伝わってきたといわれます。歴史を経て今日まで受け継がれ、文化生活の向上とともに発展してまいりましたが、いま私たちの身の回りをみまふと、その製造技術は歴史の浅い洋紙のなかに生かされているといえます。しかしながらいかに近代化された現在とはいえ、日本独特の和紙にはその美しさと特有の強さのほか、あたたかさ、あざやかさなどの風和があり、洋紙よりはるかに魅力があります。だから、私は和紙の歴史、和紙の製作過程について研究したいと思っています。

留学生として私は日本の和紙をみつめ、存在がうすれている和紙の現況を把握し、又伝統的な和紙の製法に基づいて、楮（紙の原料）

の採り入れから、紙漉きまでを体験しようとしています。日本国内では数多くの和紙の産地があるが、在席大学が兵庫県であることの足場を利点に考えると、やはり多可郡加美町の杉原紙に興味湧きます。いままでに10回足を運びました。夏季の頃には紙漉き工程が中心になされていました。ここでは和紙の原料と製作過程を簡単に紹介します。和紙の原料は主に楮、雁皮、三椏などがあります、そして製作過程は次のようです。

①楮刈り②楮蒸し③皮はき④黒皮とり⑤川さらし⑥釜たき⑦楮みだし⑧紙たたき⑨紙漉き⑩圧搾⑪紙干し⑫選別。

いま、大学で私の指導教官である櫻井農正とともにすでに50枚程の和紙をいろいろと条件を変化させて漉きました。紙を作るには単に一種類の原料で作ることができますし、多種類の原料をまぜあわせて作ることもできま

す。楮以外の物、例えば：牛乳パックなどを使ってもできる、これはいわゆる半再生紙と考えられます。いま、私自身で和紙を漉きましたけれど、これからの作業としては木版画との関係で一番良い和紙を見つけ出すために、顕微鏡カメラなどを用いて実験などをする事になっています。

学生にとって、一番大事なことは一生懸命に勉強することだと思います。留学生は国を離れて、家庭の温かさを失ったり、言葉の不自由と生活費の不足などの悩みが、常につきまといます。そのために、勉強にもなかなか専念できません。私は、去年の四月から米山奨学生になったお蔭で自分の研究に専念することができるようになり、非常に嬉しく思います。ロータリー米山記念奨学会に感謝の意を申し上げます。

なに～それ？

CHO-MINGCHEN
大阪大学 陳卓明

桜の季節になると「別れる」という言葉を思い出します。第二の故郷とも言える日本に十年以上も住んでいて、思い出せる言葉は「さよなら」しかありません。自分の日本語の貧しさを情けないと思っています。

十年間の学校生活に研究と言われる仕事をやってきました。研究をする人には興味をもってやっている人と生活のためにやっている人がいますが自分がどっちに属するのかいまだにわかりません。この文章を通して自分のやっていることを皆様に紹介しようと思っています。

「レーザー核融合」と言うあまり聞きなれていない研究がありますが、その中にターゲット製作研究があります。私はこのターゲットの製作開発を担当しています。レーザー核融合とは二十一世紀のエネルギーの出所といえはほかの研究者に殴られ死んでしまうかも知れません。でもこの研究の重要性を表わすためにこう言わざるを得ません。人類の滅亡を考えればなん種類の可能性があります。その内の一つは人類は核戦争で死に殆えてしまうと最近よく言われるが私はそうは思いません。核戦争を起してもそれは地域的しかな

いと思うからです。なぜなら、地球スケールの核戦争を起こそうとすれば人類の大部分は狂わなければなりません。今の地球を見ればそういう現象はまた発生していません。もう一つの可能性は病気で、エイズのような難解の病気がもうなん種類ができれば人類は多分危機に瀕するでしょう。しかし科学の進歩につれて医療のテクニックも高くなるからこのような可能性もすぐなくなります。可能性の一番大きいのは人類の自己増殖です。二十一世紀の初期になると地球の総人口は現在の二倍ぐらいになると言われています。現在の階段では人類の三分の一は貧困の中にいるという総計がありました。二十一世紀に入ると今のなん倍にもなると予想されています。人類自身が地球を食いつくしてしまいます。もちろん環境破壊などの附属理由もこれを促進することになります。もっと食糧を生産するや砂漠を緑地に変るためにエネルギーの補給がもっと必要になります。このために現在のレーザー核融合研究が必要な理由はここにあります。

レーザー核融合の概念を簡単に説明します。レーザー光をなん本かを用いて四方八方から

中心とする中室燃料球を照射する。レーザー光のエネルギーが高いので燃料球の表面がプラズマ化され、光のくる方向と反対に噴出する。この噴出の反作用により燃料が球中心に圧縮され、ある密度まで圧縮されると核融合が起こる。そしてこの核融合によって発生したエネルギーをとり出し、いろんなどころで使うわけです。このプロセスの内に特に大事なことはレーザー光の照射均一及びターゲットの真球性と燃料層の均一性にあります。私はいかにこのターゲットの真球性及び燃料層の均一性を向上させるために研究を進んできました。最近の新しいテクニックは凍った中室燃料球の中心に火をつける研究をやりました。このつけた火によって重力により垂れさかた燃料の層を均一にするものです。なかなかユニークな考え方であり、将来の期待も大きいようです。ふつうのひとは氷りの中に

火をつけて氷りを溶かさず様子を見ればたぶん「なにーそれ？」というでしょう。でももともとこう言う変な考え方は科学進歩の根源になると思います。遊び半分の研究をやってきた私にとって結構この研究に頭をつっこんだ、なぜなら、おもしろいからです。みんなも遊び半分がこの世間を渡ればおもしろいものや物事をみつけるかもしれません。

good luck.



米山奨学生学友会（関西）の1992年度活動報告

米山奨学生学友会（関西） 会長 許 紫 芬

1. 主な行事

- 行事 米山奨学生学友会（関西）
1992年度総会
- ホスト 米山奨学生学友会（関西）
- 日 時 1992年5月30日（土）
- 場 所 ホテル南海
- 参加人数 80名
- 内容紹介 挨拶、各報告、会長（許紫芬）幹事長（王石明）の選出及び承認、新入生歓迎会

- 行事 米山奨学生学友会（関西）
1992年度秋の懇親会
- ホスト 米山奨学生学友会（関西）
- 日 時 1992年11月1日（日）
- 場 所 嵯峨野紅葉散策
- 参加人数 50名
- 内容紹介 武尾敬之助・増本猛・嘉ノ海和男委員長挨拶、食事、トロッコ列車、保津川下り、記念撮影

- 行事 米山奨学会レクリエーション
- ホスト R.I.第2660地区
- 日 時 1992年10月4日（日）

- 場 所 宝塚大劇場
- 参加人数 学友会から代表として10名
- 内容紹介 観劇、挨拶、懇親パーティ、カラオケ大会

- 行事 米山奨学生歓送会
- ホスト R.I.第2640地区
- 日 時 1993年2月24日（水）
- 場 所 ホテル アミニティ堺
- 参加人数 学友会から代表として2名
- 内容紹介 挨拶、終了奨学生の紹介及び感想発表、修了証書・記念品贈呈、会食

- 米山奨学生歓送会
- ホスト R.I.第2650地区
- 日 時 1993年2月27日（土）
- 場 所 東天紅
- 参加人数 学友会から代表として1名
- 内容紹介 挨拶、終了奨学生の紹介、終了証書・記念品贈呈、会食

- 米山奨学生歓送会
- ホスト R.I.第2660地区
- 日 時 1993年3月7日（日）

場 所 新阪急ホテル 2F 星の間
参加人数 学友会から代表として4名
内容紹介 挨拶、終了奨学生の紹介及び感想
発表、修了証書・記念品贈呈、会食

2. 1992年7月26日第1回役員会議で秋の懇親会の方針と実行責任者を決めた。会員名簿作成のため、懇親会のご案内状と共に会員カードを発送。194通の内22通住所不明、98通返事なし。74通の会員カード資料により会員名簿(初稿)完成。

3. 1993年1月30日第2回役員会議を開き

1993年度総会を5月30日に決めた。その後、編集会議で会報第9号の構成についての協議を行った。寄稿の少なさから、会員への呼びかけをもっと積極的に行わなければならないと痛感した。

4. 1993年4月15日第3回役員会議を開き1993年度総会の内容方針を決め、来年度の予算の審議を行った。1993年度総会の案内は会員名簿の最終整理のつもりで、会員カードを発送していないOB会員にも発送。280名の案内状を4月24日に発送済。

友の輪を広げましょう

学友会(関西)会長 許 紫 芬

新緑さわやかな5月になりました。毎年この頃、米山奨学生学友会(関西)の総会が開かれることになっております。1993年度は8年目を迎えようとしています。昨年私は総会で選挙によって会長に選ばれました。この1年間の運営にあたり、ご指導とご協力を賜りました関西4地区のロータリー米山地区委員長様及び学友会の役員の方々に深く感謝申し上げます。

学友会の主旨は、学友会(関西)の会則に「本会は、元及び現米山奨学生間の交流を通じて親睦及び互助を促進すると共に、国際親善及び世界の平和に寄与することを目的とする」と書かれております。学友会の理想は会員の参加意識及び協力を得ない限り実現はできません。OB会員の親睦のため、昨年秋の懇親会の開催と同時に会員カードを194名の正会員へ発送しました。その返事は、参加者25名(家族を合わせると47名)不参加者54名、住所不明22名であり、返事のない方は、93名にも達していました。学友会の活動は会員おのこの都合により、参加出来ない実情はよく判りますが、正会員(元米山奨学生)名簿の整理・作成は、学友会の活動の基礎作業であり、会員の皆様様の協力が無い限り、スムーズに運ばれません。住所変更・勤務先の変更があれば、財団法人ロータリー米山記念奨学会(〒105 東京都港区芝公園2丁目6番3号abc会館ビル)へ登録し、同時に米山

学友会(関西)の会長及び幹事長へもご一報下さい。くれぐれもよろしくお願い致します。

激しい競争の中に米山奨学生に選ばれた瞬間の喜びは、会員の皆様は、きっと一生忘れられないと思います。米山奨学生の身分は光栄の象徴とも言えます。奨学期間終了後、自動的に米山学友会の会員になります。われわれ学友会会員の共通点は唯々ひとつ、米山奨学事業の経験者であったことです。われわれ会員の相違点は山ほどありますが、どこまで次の共通点を生み出せるかは疑問であります。でも唯一の共通点をいかして、先輩と後輩のつながりを深めていきたいと思っております。これが現段階の学友会が努力しているささやかな目標であります。会員の皆様のご参加と年会費(¥2000円)の納入をせつにお願い申し上げます。

皆様のみますますのご活躍とご健康をお祈りいたします。



NEWS

☆赤ちゃんの誕生おめでとう

文燕友：1991年12月12日 女子

☆おめでとうございます。

・博士学位の取得

石若一：経営学博士学位（大阪市立大学経営学研究科）

陳卓明：工学博士学位（大阪大学レーザー核融合研究センター）

唐捷：工学博士学位（大阪大学工学部）

林珠雪：文学博士学位（神戸大学文学研究科）

・結婚

王昭文：大阪市立大学博士課程人間福祉学
平成5年3月2日 中華民國台湾台北で林信男さんと挙式されました。

・就職

盧聰明：京都大学経済学研究科博士課程修了
就職先：東京都港区新橋1-11-7
三和総合研究所東アジア室
TEL：03-3572-9036

唐捷：科学技術庁 金属材料技術研究所
基礎物性部門



1993年度米山奨学生学友会関西地区役員名簿

- | | | |
|-------------|--|--|
| 会長 | 許 紫芬（山岡由佳）
甲子園大学 経営情報学部
〒550 大阪市西区江之子島1-8-21-411
☎：06-445-1090
Fax：06-445-1090 | 〒658 神戸市東灘区深江浜町124-307
☎：078-413-9473 |
| 幹事長 | 王 石明
〒606 京都市左京区北白川山元町2
☎：075-702-2445 | D-2660 尹 淑鉉
大阪市立大学 社会学 D1
[大阪難波R.C.]
〒558 大阪市住吉区杉本1-12-11
☎：06-609-1349 |
| 副会長（編集代表） | D-2680 大塚賢龍
甲子園大学 経営情報学部
〒532 大阪市淀川区三津屋北1-6-20
☎：06-301-3358, 06-308-4070
Fax：06-300-5271 | 幹事
学術 王 充志 明光証券
〒659 芦屋市津知町2-20
三佳文化1F北
☎：079-22-8405 |
| 副会長 | D-2640 韓 賢燮（堺南R.C.）OB
自宅：〒591 堺市新金岡町3丁目5-14-309号
☎：0722-58-6294
会社：(株)友電舎, 研究開発部
☎：06-465-1663 | 庶務 王 幸珍 Kaneta株式会社
〒661 尼崎市東園田町9-1-14
園田グリーンパーク608
☎：06-498-6449 (H)
06-282-3511 (O) |
| D-2650 劉 嘉雄 | | 書記 吳 淑芬 (株)コベルコ 科研
〒651 神戸市中央区山本通2-13-10
☎：078-221-5160 |
| | | 会計 王 昭文 |

- 大阪市立大学 人間福祉学
[大阪船場R.C.]
〒556 大阪市浪速区敷津西2-9
-2 八阪ハイツ807
☎: 06-636-1070
- 親睦 李 静淑 大阪市立大学
〒558 大阪市住吉区我孫子4-10-21 ハイム我孫子306号
☎: 06-692-9571
- 鄭 明富
大阪芸術大学 建築学科
〒547 大阪市平野区喜連西4-7-48
☎: 06-703-7817
- 国際交流 干 水
大阪市立大学 民事法学
[大阪鶴見R.C.]
〒577 東大阪市森河内東1-15-21
☎: 06-789-7435
- 蔡 昭替
大阪教育大学 教育学研究科
〒591 堺市中百舌鳥町7-1106-A3-503
☎: 0722-86-6455
- 許 文九 (岸和田北R.C.)
大阪府立大学 経済学研究科
前期博士課程・地域経済専攻
〒558 大阪市住吉区杉本町7-7-23
☎: 06-609-3109
- 会計監査 莊園福松 税理士
〒530 大阪市北区鶴野町4
コーポ野村梅田A-216
☎: 06-375-1070
- 相談役 重光世洋 (大阪R.C.)
大阪産業大学工学部
〒630 奈良市七条西1-11-19
☎: 0742-44-5004
- 魏 栢良 (大阪平野R.C.)
大阪経済法科大学
〒567 大阪府茨木市新郡山2-13-506
☎: 0726-43-6158

編集後記

「米山奨学生学友会(関西)」の会報第9号をお届けします。この号には、ロータリアンおよび会員の寄稿、平成4年6月から平成5年5月までの当学友会の活動報告、会員消息、ニュースなどを収録しています。

会員の文章については、原則的に「てにをは」のみを訂正することにしました。また、今回の挿絵は、「花」をテーマにしてパソコンソフト「花子」の部品から図案化したものです。

第9号は経費節約のために、以前のものに比べて多少うすいものになっています。今後も一層中身の充実を図っていきたいと思いますので、会員の皆様のご協力をお願いします。なお、当学友会会報についての意見や提案がありましたら、下記の各委員までお願いします。

最後に、執筆者の皆様にお礼を申し上げます。

編集委員代表

大塚賢龍

編集委員

許 紫芬
王 石明
劉 嘉雄
尹 淑鉉
韓 賢燮
大塚賢龍
王 充志
文 燕友





ROTARY
YONEYAMA
SCHOLARSHIP
ALUMNI
ASSOCIATION